

平成24年度研究成果報告書 <<平成24年度教育課程研究指定校事業>>

ふりがな 学校名 (児童生徒数)	やまぐちけんしものせきしりつかわななかちゅうがっこう 山口県下関市立川中中学校 (675人)
------------------------	---

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：山口県下関市伊倉新町四丁目6番1号

電話番号：083-252-0900

メールアドレス：kawanaka-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

学校のホームページのURL：http://shp.edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/~kawanaka_c/blognplus/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：3

○研究対象教科等：国語 数学

○研究のキーワード：

全国学力・学習状況調査、誤答分析、書く力、計算する力、教科センター方式

○研究成果のポイント：

全国学力・学習状況調査を活用し、誤答分析によって学力課題を絞り込み、国語・数学の書く力と計算する力の育成に向けた取組を全教科に広げ、その成果を学力調査問題や類似問題で評価した。

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

書く力、計算する力を高める指導方法と評価に関する実践研究
～学力調査を生かした授業改善～

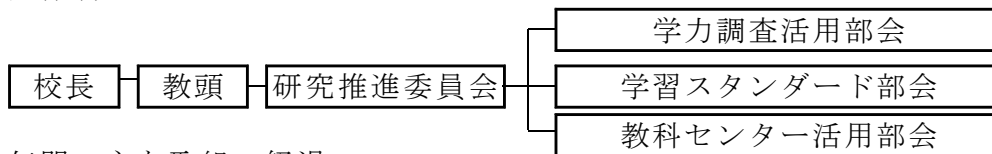
(2) 研究主題設定の理由

全国学力・学習状況調査の結果をみると、本校は、国語・数学のA・B問題ともに平均正答率が全国平均を下回っている。この原因として、国語では「書くこと」、数学では「数と式」に関する領域の正答率が低いことが挙げられる。一方、これらの領域の無解答率は全国平均より高い。

正答率が全国平均を下回る設問について、誤答分析をした結果、国語・数学に共通して、「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書いたり計算したりすること」に課題があることが明らかになった。

このため、書く力、計算する力に着目し、学習内容に対する興味関心を高めて学力の確実な定着を図ることが、本校の課題であると捉え、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

平成24年度	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査、NRTによる学習状況の把握 (4月)・書く力、計算する力の育成に向けた全教科・全教職員の共通実践を「川中中学学習スタンダード」として策定 (5月)・教科センター方式を生かした教科指導の工夫・【数学科】研究授業公開、国立教育政策研究所学力調査官による指導助言 (5月)・【国語科】研究授業公開、国立教育政策研究所学力調査官による指導助言 (6月)・やまぐち学習支援プログラム1学期末評価問題の実施 (7月)・授業研究会の実施 (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・保体・特別支援), 参加者のワークショップ型研修による授業分析と、指導者による指導助言 (11月)・やまぐち学習支援プログラム2学期末評価問題の実施 (12月)・PDCAサイクルによる取組の振り返り・WEBによる成果のまとめ公開 (2月)
--------	--

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 全国学力・学習状況調査の誤答分析による学習課題の絞り込み

- ・書く力，計算する力に着目し，正答率が経年的に改善されない設問，平均正答率が低く全国平均との差が大きい設問などの特徴的な問題を取り上げ，以下の観点で誤答分析を行い，生徒のつまずきの原因を把握する。

1 A・Bいずれの問題に課題があるか。	2 学習指導要領のどの事項に課題があるか。
3 無解答率が高いのはどの設問（領域）か。	4 生徒は何につまずいて正答できなかったか。

② 書く力，計算する力を伸ばす改善アイデアの全教科教員による共有

- ・国語，数学の学習状況を踏まえ，本校の課題である書く力，計算する力の育成に向けた全教科・全教職員の共通実践を「川中中学学習スタンダード」として策定し，学習内容と指導方法の両面から工夫改善を図る。

スタンダード 1 : 「今日のめあて」を板書し，生徒は自分のノートに記入
スタンダード 2 : 自分の意見やアイデアをもちホワイトボードを活用して交流する場を設定
スタンダード 3 : 学習を振り返り，まとめを自分の言葉でノートや学習プリントに記入

・【国語科の取組】

「課題設定や取材，構成，記述，推敲，交流」の学習過程を踏まえ，各学年段階に応じて，物事について感じたことを書く，物事を整理し考えや意見を書く，事実や思いを伝える文章を書くなどの言語活動を行う。その際，マッピングを使ってイメージや語彙を広げたり，表を使って事実を整理したりするなどの活動を取り入れる。

・【数学科の取組】

基本的な計算への取組を充実させるとともに，日常生活で数学を活用する場面を取り上げ，「立式・計算・解釈」の一連の活動を通して，学力の定着・向上を目指す。具体的には，「4コマ漫画」問題の創作や，計算・方程式ラリー，数当てゲームなどによって，設問のイメージ化や計算に対する意欲の向上を図る。

③ 教科センター方式を生かした教科指導の工夫

- ・通常の特別教室に加えて，国語，社会，数学，英語などの教科教室に，他の学級や異なる学年の生徒作品を掲示したり，実物投影機やDVDレコーダーを常備し，視聴覚機器を日常的に使用したりする。
- ・教科ごとのエリアに，段階に応じた学習プリント（「やまぐち学習支援プログラム」：山口県教委作成）を置き，生徒が自主的に取って学習できる環境をつくる。

④ 全国学力・学習状況調査問題や類似問題を活用した検証

- ・学習効果を検証するため，過去4年間の全国学力・学習状況調査問題やその類似問題を全学年の定期テストに出題し，誤答分析を行い，指導の前後における定着状況の変化を把握する。
- ・各学期末に「やまぐち学習支援プログラム」の学期末評価問題を実施し，年度当初と比較して学力の状況を把握する。
- ・生徒，保護者による授業評価を実施し，授業改善の取組について評価する。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

本研究では，全国学力・学習状況調査の結果を活用して学力の課題を絞り込むことが可能となった。また，国語や数学の取組を生かし，教科の壁を越えて全教職員が共通して実践できる指導方法を工夫したことが相乗効果を生んだ。生徒は，ホワイトボードを活用して，自分のアイデアをイラスト化したり，根拠を示して説明したりするなどの活動に意欲的に取り組むようになってきた。

今後，全国学力・学習状況調査などの調査により，他領域への広がりも検証したい。

(2) 研究成果の意義等

多くの中学校では，生徒指導の課題や教科の壁に阻まれ，学力向上に向けた有効な手立てを見出すことができない状況にある。こうした中，課題を絞り込み，全教職員で授業改善を進める「一点突破・全面展開」型の取組は，全国学力・学習状況調査の活用方法の一つとして有効であると考えられる。

(3) 指定期間終了後の取組

今回の調査で課題の見られた領域や設問について，経年変化を見守るとともに，誤答分析の手法を活用して，具体的な学力課題の把握に努め，「川中中学学習スタンダード」を徹底し，全教科・全教職員による授業改善の取組を継続する予定である。